

令和5年度 学校運営協議会 第2回議事録

校名	府立生野聴覚支援学校
校長名	田口 登志子

開催日時	令和5年11月16日(木)10:30～
開催場所	府立生野聴覚支援学校 1階 大会議室
出席者(委員)	吉田委員 末綱委員 小椋委員 中尾委員 牧野委員 正木委員
出席者(学校)	校長 田口、教頭 大井・永田、事務長 徳留、首席 井端(部主事と兼ねる)・佐加・中野、部主事 中道・前田
傍聴者	0名
協議資料	令和5年度 学校経営計画及び学校評価他
備考	

議題等(次第順)

1. 学校長あいさつ
2. 学校教育自己診断について(資料1)
3. 学校経営計画の進捗について(資料2)
4. その他(事務局から)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

2:今回から、タブレットを利用してQRコード等によりアンケートを行った。Googleフォームで回収。保護者にかぎり、紙ベースの物も準備した。また、児童と教職員の診断項目の文章表現を一部、変更した。回収率は児童生徒98.2%、保護者81.2%、教職員98.4%であった。幼稚部、小学部、中学部とも昨年と比べて、肯定率は上がっている。

3(1)安全に、安心して学べる学校づくりを推進するについて

- ・学校教育自己診断「学校に いくのは 楽しい。」の質問に対して、児童・生徒の肯定率を目標83.6%以上に設定した。88%、と上回った。
- ・学校教育自己診断「先生は、いじめやけんかなどでこまっているときに、きちんと話を聞いてくれる」の質問に対して、児童生徒、保護者の肯定率をそれぞれ目標70%以上に設定した。児童生徒86%、保護者84%と、どちらも上回った。
- ・前回の協議で体罰防止についての取り組みにご意見をいただいた。校内では人権研修として「ゆまにてなにわ」を用いてのグループワークと体罰に関するビデオの視聴とチェックシートを実施した。

＜ 人権教育について 意見 ＞

委員:子どもは一人ひとりそれぞれの受け止め方がある。カウンセリングの中でそれを感じ、子どもとの関係作りが大切になってくる。

委員:時代はジェンダーレス。例えば女の子に「それはメンズの服?」と聞き、コミュニケーションを取っているつもりでも、子どもはずっと気にしている。細かい配慮が必要。

会長:例えば、「頭ごなしに言う」「見捨てる」「きつい言葉」などは、体罰には当たらないが、先生として気を付けなければならないこと。目に見えてダメなものばかりやすいがことばによるものもある。そのあたりも気を付けながら今後の指導にあたって欲しい。

(2).将来を見据え、確かな学力の向上を図るとともに、特色ある教育活動を推進する。

・進路キャリア部では、交流教育の充実に努めている。中学部では、陸上や卓球など各種大会での交流、小学部では、東桃谷小学校と各学年が交流、幼稚部では一日訪問や地域の幼稚園と交流を行っている。また、小中では、希望者に居住地交流を行い、将来を見据えた取り組みを行っている。

(3).聴覚障がい教育を中心とした専門性向上を図る

・支援部では支援体制の充実を図り、学部児童を対象にしたケース会議を5回実施した。・全日ろう研が奈良で開催され、本校から2名の教員が発表した。他、参加した教員からの伝達講習も行い、全体での共有を図っている。

＜ ICT活用について 意見 ＞

学校:Classroomの活用は現在、教員間の連絡や、教材の提示、保護者向けプリントの送信などで小中学部が中心となり行っている。

委員:地域の小学校でも授業でPCを活用し、写真などを常に共有している。また、デジタルドリルなども取り組んでいる。

委員:地域の防災訓練でアプリを使用した。バージョンアップの必要性を感じた。

(4)いくの聴覚言語センターとしてセンター的機能を発揮する。・地域の教員が参加可能な「理解啓発研修」や「夏の子育て講座」を実施した。

4その他

委員:保護者の自由記述には「新しいスタンダードを取り入れて欲しい。」という意見があった。先生方はどのように受け取られているのか。

校長:今後、校内で検討をすすめることになっている。

会長:学校と保護者のお互いの歩み寄りが必要。学校教育自己診断では、肯定率が上がっており、概ね当初の目的は達成すべく進められている。学校側のがんばりと保護者の協力で今後、この数値を落とすことなく進めてほしい。校長は子どもたちを宝、教職員を財産と考え、保護者のニーズも捉え、さらに全体で協力してがんばってほしい。また、保護者の文章表記については、読んでいただいたうえで、何らかの答えを用意してほしい。

次の会議日程

日時	令和6年2月22日(木)10:30～12:00
会場	府立生野聴覚支援学校 1階 大会議室